

第7回阪南みらい会議 会議要旨

○日時：平成22年4月21日（木）

19:00～21:00

○場所：市役所3階 全員協議会室

○出席者

委員	15名（欠席者6名）
アドバイザー	近畿大学 久教授
事務局	総務部理事、みらい戦略室5名、 パシフィックコンサルタンツ（株）3名

（1）会議の進め方について

（委員の意見）

- ・前回までの流れどおり、議題自由の分科会形式としたい。
- ・前回委員が配布したDVDは、一枚目が富田林市の汚水処理方法と生活排水、二枚目が長野県下條村の地域主権の独自の取組みなどについてのものであった。市外での成功事例も踏まえて議論していきたい。

（まとめ）

- ・テーマを絞らず班形式で、司会者中心で2班に分けて話し合う。

（2）グループに分かれて意見交換・内容発表

○グループ①（7名）

- ・情報の発掘・共有および意識改革が重要である。
- ・情報において地域の中心となるのは自治会。しかし、新興の住宅の地域と旧村の地域、高齢化の進んでいる地域と進んでいない地域で違う部分があるため、地域に応じた伝え方が必要。
- ・教育という問題の中でも、地域で一緒に「共に育てる」という考え方があり、意識改革が一番大事である。

○グループ②（8名）

① 前回の委員提案内容「水道管の耐震化」について

水道の耐震化は「安心・安全のまち」という現行総合計画の基本計画に照らしても重要課題であり、全国に先駆けて進めていく体制を求めて提言すべき。

② 企業誘致について

企業誘致はまちの発展（雇用、税収改善）に繋がるので、積極的に行うべき。

③ 地場産業について

十四匠など地場産業や阪南市の第一次産業について、もっと全国にPRしながら発展していくことが必要。

④ 公園について

泉佐野市のパークレンジャーの例。市民ボランティアの手で管理することで活きた公園に。

～久教授アドバイス～

- ・ 阪南市の将来像を考えるうえで、具体的な話になりがちであるが、「大きな方針・テーマ」を作っておくことが非常に重要。その方針にのっとって議論をすることで、締まった議論ができるのではないかな。
- ・ お金があればあれもこれもできるので、大きな方針はいらない。財政難だからこそ、大きな方針に従った選択と集中が必要である。
- ・ 個別具体的な話が終わった段階で、もう少し1つ2つ手前に立ち返って「大きな方針・テーマ」を見つける作業に移っていただきたい。

(事例) 奈良の大宮通りの景観まちづくりのワークショップ

具体的な話は、心地よく訪れてもらえるよう、景観を守るための「看板規制」や「建物規制」

大きな方針としてのキャッチフレーズは、

「おもてなしの心でつくる うるわし大和の大宮通り」

- ・ 個別の話だけでなく、どういう目的があってその話が出たのかを押さえて、ストーリーを作っていくことが大切。それをすることで、自ずとキャッチフレーズ、テーマが見つかってくる。それはひとつでなくてもいい。
- ・ 情報についての話題が出ているが、私自身、きちんとした、ネットワーク社会の構築を目指したいが、そのためには、今までとは違った社会の仕組み・仕掛けが必要であり、それは、情報交換のための場や機会の設置、人材育成、情報政策の3つではないだろうか。
- ・ 1つ目の、市民活動や情報の交換・共有で重要なことは、誰かが引っ張ったり、押し付けたりするのではなく、自発的に動くことである。そのために、みんなが自分の気持ちで動けるよう雰囲気を作ることも必要。
- ・ 2つ目の、人材育成について、ネットワークを構成する一人ひとりの能力の向上がネットワーク社会には重要である。
- ・ 3つ目の、広報を含む情報政策は非常に重要であり、情報をいかに的確に把握・分析し、政策に反映させていくという意味でも情報政策は非常に重要である。
- ・ また、今後10年間で重点的に何をしなければならないか、重点化するポイントを見つけて、メリハリをつけることが大切。

(事例) 交野市の総合計画

道路や公園などの整備も大切だが、それ以上にこの10年で新しい仕掛け・
仕組みを作ることに重点を置いている

何を柱にして、きちんと進めていくかを決定することが大切

(委員の意見)

- ・今回で具体的な議論をどうやって将来像にまで持っていくかのイメージができたのではないか。次のステップに進みやすくなったと思う。
- ・具体的な意見が出てくる動機になった部分について、あるいは希望が叶ったら自分の生活がどう変わるかについて遡って考えていくというのは、将来像を導き出すうえで有効ではないだろうか。

(3) 次回の日程

- ・4月30日(金)

以 上